

令和元年度（平成 31 年度）

専攻科修了時アンケート調査結果報告書

令和元年度専攻科修了時アンケート分析

1. 創造工学専攻全体

昨年度より全体的により円に近い形で高い評価の外側に寄っており、全ての項目に対し2.5を超える評価であり、平均的に肯定的な結果であった。特筆できるのは「進学に際して専攻科を第一希望としていましたか」という問いが平均3.8と、昨年度の3.2、一昨年度の2.4に比べ、大きく向上した。また、キャンパス間、コース間の差が小さくなっている。これらは、キャンパスの特徴を生かしつつ、両キャンパス一体運営の基、ドイツ ROS 派遣やマレーシア工科大での海外インターンシップ等のグローバル化、情報セキュリティ技術者育成プログラムの専攻科までの接続等のカリキュラム改訂、研究指導環境向上に繋がる特例適用該当の特別研究Ⅱ担当教員の増や保護者会等を通じての広報活動等、専攻科の特色の強化とその広報活動の成果と考えられる。今後も継続の必要がある。

2. アンケート回答数と回答率

・品川機械（回答者数13名/対象者13名）、品川電気電子（2/2）、品川情報（5/5）、荒川機械（7/8）、荒川電気電子（5/5）、創造工学専攻全体（32/33）回答率 97%。修了者数の関係で品川電気電子のアンケート回答数が少ない点、分析時に注意が必要。

3. 各コースの傾向

・今年度の専攻科第一志望についてコース間の差がほとんどなくなり、全体の平均は3.8と大いに高く、昨年度の3.2、一昨年度の2.4に比べ、大きく向上した。

・専攻科所属に対する満足度は全てのコースが3を超えており高い。そのなかでも荒川キャンパス電気電子工学コースが高かった。

・特別研究での達成感荒川キャンパス機械工学コースを筆頭に総じて高いが、情報工学コースは若干低い傾向がみられた。

・卒業後の進路については、全コースが平均3を超えており、情報工学コースと荒川キャンパス機械工学コースが高かった。

4. 修了要件の周知状況

・専攻科の修了要件を知っていますか、の問いに対し全員、知っている、あるいは、ほぼ知っているであり、全コース3.4以上で高く、十分に周知がなされていることが確認できた。

5. ディプロマポリシーとの対比

下記に示す様に目標毎の高低があるが、全目標に対し全コースの平均が2.7以上であり、平均的な修了生の捉え方としてディプロマポリシーを満足していると考えられる。

（1）学習力

・全コース3.0~3.5で総じて高かった。

（2）コミュニケーション力

・全コース3.0以上で総じて高く、国際会議や学会での発表を行わせ、一部、賞を受賞する

等の教育成果がみられた。

(3) 人間性・社会性

・平均は 3.3 であるが、2.5、2.7 のコースがあり、他の項目に比べると低い傾向が見られた。

(4) 基礎力：数学、自然科学

・全コース 3.0~3.6 で総じて高かった。

(4) 基礎力：専門

・全コース 3.3 以上で総じて大いに高く、特に情報工学コースは 3.8 であり、全般的に専門教育が効果的に行われていることが伺える結果となった。

(5) 応用力・実践力

・全コース 2.7 以上であり高く、実践的な教育の効果が見られ、品川キャンパス機械工学コースが若干低く、荒川キャンパス機械工学コースが特に高い結果となった。

(6) 創造力

・全コース 3.4 以上と総じて大いに高く、特別研究への取り組みの効果が見られた。

以上

令和元年度専攻科修了時アンケート

●— 機械工学コース 品川 ●— 電気電子工学コース 品川 ●— 情報工学コース 品川 ●— 機械工学コース 荒川 ●— 電気電子工学コース 荒川 ●— 全体

進学に際して専攻科を第1希望としていましたか？

